

平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 地域産業の担い手であると同時にグローバル社会にも対応できる人材を育成する教育活動を展開し、地域に信頼され、誇りとされる学校をめざす。
1. 基本的な生活習慣やルール・マナーなどの規範意識を身につけた自律できる生徒を育成する。
 2. ものづくり教育・工業教育の基盤ともいえる基礎学力を身につけた生徒を育成する。
 3. 教職員の資質向上を図るとともに生徒のモチベーションを高め、ものづくり教育を推進する。
 4. 社会人・職業人として自立し、豊かな心と人権感覚をもった、社会ひいては世界に貢献できる人材を育成する。

2 中期的目標

- 1 豊かな人間性の育成・社会性の醸成
 - (1) 人権感覚豊かな心の育成及び社会の秩序・ルールを確実に守る規範意識の醸成
 - ア あいさつの励行や遅刻をしないなどの基本的な生活習慣を身につけた生徒の育成に努める。
遅刻数について500台を目標として努力する。(平成30年度 601)
 - イ いじめの予防に重点を置き、安心安全な学校づくりに努めるため、学期ごとに生徒に対しアンケートを実施する。
 - (2) 美化・清掃活動の強化による規範意識の醸成
 - ア 美化・清掃活動に全校で取り組む。
生徒向け学校教育自己診断の「校内美化」に関する項目における満足度(平成30年度55%)を2021年度には70%にする。
 - (3) グローバル人材の育成
 - ア ものづくりニッポンを海外に発信する素地を作るため、海外の高校生との交流を図り、グローバル感覚を育成する。
海外の複数の高校との交流を推進する。
- 2 確かな学力への取組みと進路保障
 - (1) 基礎学力の定着を図り、進学希望も含めた様々な進路のニーズに応えるため、「主体的・対話的で深い学び」をめざして授業改善に取り組む。
 - ア 平成30年度入学生より変更したカリキュラムの趣旨に添い、基礎学力の充実を図るとともに、授業公開や授業アンケートを通していっそうの授業改善に努める。
外部テスト「基礎力診断テスト」における最下位層の人数を減少させる。
生徒向け学校教育自己診断の「学力の向上」に関する項目における肯定度(平成30年度74%)を2021年度までに80%以上にする。
生徒向け学校教育自己診断の「授業はわかりやすく楽しい」に関する項目における肯定度(平成30年度66%)を2021年度には80%以上にする。
確かな学力の一層の定着を図り、就職一次内定率(平成30年度88.4%)、年度末内定率(平成30年度100%)については維持し、3年後の離職率(平成30年度29.7%[判明分])を減らすよう努める。
 - (2) 生徒の自己実現への支援
 - ア 人権相談部による人権教育・教育相談体制の充実並びに支援教育コーディネーター等による要配慮生徒へのサポート体制の充実
 - イ 3年間を見通した進路指導の充実
- 3 ものづくり・地域連携等を通じたキャリア教育の充実
 - (1) ものづくりのための実践的技術力の向上
 - ア 企業が求める資格の調査・精査と資格取得の奨励並びに講習会の充実
資格取得の推奨、講習会の充実により、検定試験の受験者数(平成30年度742人)を増やし、合格率(平成30年度59.3%)を高める。
 - (2) ものづくり教育を充実させ、ものづくりニッポンの担い手としての自覚をもつ生徒を育てる。
 - ア 生徒による校内企業「城工房」等により、生徒が主体的にものづくりのプロセスを体験する機会を増大する。
 - イ 地元企業等との連携やインターンシップ等を活用し、各種競技会への参加機会を増大する。
 - ウ 小中学校や行政機関と連携した小中学生対象の「ものづくり教室」や「出前授業」を行い生徒の外部交流への参加や発表の機会を増大する。
成果発表の場やさまざまな競技会などへの参加回数及び「ものづくり教室」や「出前授業」の実施回数(平成30年度30回)を増やす。
 - (3) 地域産業連携重点型校として、ものづくりを通して地域貢献と保護者との連携により地域に根ざした学校づくりを推進する。
 - ア 地域や地元企業の協力のもと、さまざまな活動を推進することにより、地域貢献に努めるとともに地域に根ざした学校づくりをめざす。
地元企業との連携と地域へのさらなる情報発信をめざして設立した「城工メッセ」(地元企業紹介イベント等)の充実・発展を図る。
地元企業の協力のもと、地元を中心とした中学生とその保護者に対して地域で学び地域で働くキャリアモデルを示し、地域に根ざした学校づくりをめざす。
 - イ 保護者と学校が一体となった学校づくりを行う。保護者のものづくり教育への理解を深めるために、PTAと連携した事業に取り組む。
- 4 学校の組織力向上
 - (1) 常に学校組織の見直しを図り、組織の活性化を推進する。
 - ア 教育課程プロジェクトチームを立ち上げ、教育課程を編成・実施する。
 - イ PBL(Project-Based Learning 課題解決型学習)プロジェクトチームを立ち上げ、PBLに係る教育課程の編成・実施並びに課題解決型授業を推進する。
 - ウ 修学旅行企画会議を設け、次年度以降の修学旅行に係る企画を行う。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析	学校運営協議会からの意見
学校教育自己診断(生徒)「就職・進学の指導や説明はわかりやすいですか」は82.9%(昨年度82.0%)0.4%向上。(保護者)「将来の進路や職業について適切な指導を行っている」は92.4%(昨年度82.0%)10.4%向上。(教員)「就職・進学指導は個々に応じたきめ細かくわかりやすい指導ができています」は87.5%(昨年度82.0%)5.5%向上。 ・進路指導関連事項(進路HRや進路面談の取組み)であり、本校が最も力を注いでいる部分である。本校の方針(生徒に将来の夢・目標を与え、進路実現できるように頑張らせること)を生徒・保護者は肯定的に捉えており、全教職員が一丸となって取り組んだ結果、高い数値として表れている。進路実績(就職内定率100%、進学は四年制大学14名合格、専門学校27名合格、公務員6名合格) 学校教育自己診断「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会があった」は生徒77.6%、(昨年度76.0%、一昨年度71.9%)と、ここ3年向上している。保護者も「子どもに命を大切に心や社会のルールを守る態度を育てようとしている」は86.0%(昨年度68.0%)18.0%	第1回(令和元年6月26日) ・6限に授業見学を行った。その後、プロジェクターを活用して学校紹介(城工房の取組み、修学旅行、部活動)を映像で見ていただき、生徒の様子を理解してもらった上で、協議に入った。 ・提言内容は、生徒たちのためにPBL(Project-Based Learning 課題解決型学習)をぜひ推進していただきたいというものであった。 第2回(令和元年11月5日) ・6限に授業見学(機械系、電気系、メカトロニクス系の実習)を行った。その後、プロジェクターを活用して、体育祭など学校行事を見ていただき、生徒の様子を理解してもらった上で、協議に入った。 ・就職指導について、個々の生徒のマッチングが取れるように丁寧

<p>向上している。</p> <ul style="list-style-type: none"> これは、人権相談部が中心となり、人権 HR、生徒人権研修等の充実により、昨年度よりポイントが高くなっている。 学校教育自己診断（生徒）「先生は校則を守らない生徒や生活態度の悪い生徒に対して、注意をしていますか」は 86.0%（昨年度 85.0%）1.0% 向上。（教員）「校則を守らない生徒や生活態度の悪い生徒に対して、その都度注意をしている」は 96.3%（昨年度 96.0%）0.3% 向上。 私は、教科指導と生徒指導は車の両輪だと考えている。この結果は、教員の日頃の努力により、教員と生徒との人間関係が構築できていると思われる。さらに、次の学校教育自己診断結果から教員と保護者との信頼関係もできていると推察される。（保護者）「教育情報について、提供の努力をしている」は 79.8%（昨年度 59.0%）20.8% 向上。（保護者）「家庭と学校の連携がしっかりしている」は 75.7%（昨年度 64.0%）11.7% 向上であった。 学校教育自己診断（生徒）「あいさつをしている」は 90.8%（昨年度 35.0%）55.8% 向上。（保護者）「子どもは日頃からあいさつをしている」は 86.8%（昨年度 52.0%）34.8% 向上。（教員）「生徒は日頃からあいさつをしている」は 93.8%（昨年度 27.0%）66.8% 向上。 この結果は、実態がわかるように質問内容を変えたことによる。昨年まで（生徒）「入学当初に比べ、あいさつが改善されましたか」から前述の質問内容に変更した。さらに、「あいさつ」についても、教員と生徒、教員と保護者の人間関係ができており、教員から生徒への指導、保護者から生徒への支援により、生徒は着実にあいさつを実践できるようになっていると考えられる。 	<p>な指導をいただいている。素晴らしい取り組みであるとお褒めの言葉をいただいた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 提言内容としては PBL に関して、全ての系・教科の先生方が取り組むことが大切である。8月の教員研修で受講できなかった先生に再度の研修を行い、全員受講されたことは大切なことである。今後も、全先生方が授業改善に取り組んで欲しいというものであった。 <p>第3回（令和2年2月6日）</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題研究発表会は、試行錯誤して取り組んでいる様子がよくわかり良かった。1・2年生の生徒たちも静かに落ち着いて聞いており、良い状況だと感じた。 あいさつ、遅刻は、府立高校全体でも素晴らしい成果が出ている。先生方の日々の指導の成果であるとお褒めの言葉をいただいた。 PBL を取り入れることにより授業がよくなる。学校全体で PBL を推進し、全教員で授業改善に努めて欲しい。
---	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価																																						
1 豊かな人間性・社会性の醸成	(1) 人権感覚豊かな心の育成、社会の秩序・ルールを守る規範意識の醸成	<p>ア・生徒会、部活動部員等生徒を主体とした「あいさつ運動」の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 遅刻の撲滅をめざし、生活指導部と学年等の連携による早朝登校指導の推進 3年間を見通した人権ホームルーム計画の策定・実施 新入生オリエンテーション等の機会に、特活部を中心に部活動紹介を実施。部活動部員からの勧誘等で部活動加入を奨励 「図書部」を活用した、生徒への啓蒙活動活性化による生徒読書量の増加 <p>イ・教員間の情報共有を密にして、いじめの予兆を察知するとともに、予兆段階から生活指導上の厳しい指導を実施</p>	<p>ア・生徒向け学校教育自己診断「あいさつ」肯定的回答 50%（H30 35%）</p> <ul style="list-style-type: none"> 総遅刻数 500 台をめざす（H30 601） 生徒向け学校教育自己診断の「人権教育の充実」肯定的回答 80%（H30 76%） 5月末段階の部活動加入率 65%をめざす（H30 54%）働き方改革の一環として複数配置された部活動顧問同士の連携強化を図り、ゆとりを持って部活動を見る体制を確立し、超過勤務の縮減を図る。 年間図書館来館者数、貸し出し冊数の増加（H30 3,011 人、326 冊） <p>イ・学年連絡会議（学年統括首席・学年主任・人権相談部長で毎週開催）での情報交換と、いじめアンケートによるいじめの予兆察知件数 10 件以上（H30 106 件）</p>	<p>ア・生徒向け学校教育自己診断「あいさつ」肯定的回答 90.8%（ ）</p> <ul style="list-style-type: none"> 遅刻総数 688（ ） <p>【今後の課題】</p> <p>今後、生徒への指導とともに、家庭との連携を図り、遅刻数削減に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒向け学校教育自己診断の「人権教育の充実」肯定的回答 77.6%（ ） 部活動加入率 65%（ ） 図書館の来館者数 3,145 人、貸し出し冊数 319 冊（ ） いじめの予兆を察知し、聞き取りを実施した件数 102 件（ ） 																																						
	(2) 美化・清掃活動の強化	<p>ア 保健部、学年、生徒会等の連携で美化・清掃活動の推進</p>	<p>ア 生徒向け学校教育自己診断「校内美化」満足度 60%（H30 55%）</p>	<p>ア・生徒向け学校教育自己診断「校内美化」満足度 44.4%（ ）</p> <p>【今後の課題】</p> <p>校舎の老朽化に加え、今年度トイレ及びブロック塀の改修工事があり、常に校内が雑然としていたことも影響していると思われる。今後、生徒会を中心に校内美化についての意識を高めて清掃活動に取り組ませる。</p>																																						
	(3) グローバル人材の育成	<p>ア 海外高校生の受入れ実施</p>	<p>ア 受入れ校数 5 校以上（H30 5 校）</p>	<p>ア・受入れ校数 4 校（ ）</p>																																						
2 確かな学力への取組みと進路保障	(1) 基礎学力の定着と「主体的・対話的で深い学び」をめざした授業改善の取組み	<p>ア・外部テストの全校実施と学力向上への活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の学力向上意識の高揚 	<p>ア・外部テストの結果、1年 2年、2年 3年の経年変化による D3 ゾーンの減少（H30 1年 133 2年 102 3年 99）</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒向け学校教育自己診断「学力の向上」肯定的回答 80%（H30 74%） 英検講習参加・受験者 5 人以上（H30 参加 5 人、受験 0 人） 	<p>ア・外部テストの結果、経年変化（D3 ゾーンの人数）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">学年</th> <th colspan="2">1年次</th> <th colspan="2">2年次</th> <th colspan="2">3年次</th> <th rowspan="2">減少%</th> </tr> <tr> <th>前期</th> <th>後期</th> <th>前期</th> <th>後期</th> <th>前期</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3年</td> <td>149</td> <td>127</td> <td>102</td> <td>83</td> <td>101</td> <td></td> <td>32</td> </tr> <tr> <td>2年</td> <td>133</td> <td>131</td> <td>91</td> <td>72</td> <td></td> <td></td> <td>46</td> </tr> <tr> <td>1年</td> <td>136</td> <td>130</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table> <p>増減率は各学年とも 1年次と今年度末との比較各学年とも全て減少している。（ ）</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒向け学校教育自己診断「学力の向上」肯定的回答 68.6%（ ） 英検講習参加者 0 人、受験者数 0 人（ ） <p>【今後の課題】</p> <p>英語検定実施日と工業の資格試験実施日が重なったため英検講習参加・受験者が集まらなかった。次年度に向け、計画的に英語力を身に付けさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員相互の授業見学 97.5%（ ） 	学年	1年次		2年次		3年次		減少%	前期	後期	前期	後期	前期		3年	149	127	102	83	101		32	2年	133	131	91	72			46	1年	136	130					4
	学年	1年次		2年次		3年次		減少%																																		
前期		後期	前期	後期	前期																																					
3年	149	127	102	83	101		32																																			
2年	133	131	91	72			46																																			
1年	136	130					4																																			
(2) 確かな学力への取組みと進路保障																																										

府立城東工科高等学校

	<p>(2) 生徒の自己実現への支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教員相互の授業見学の推進 ・研究授業・研究協議による授業の改善 <p>ア・教育相談体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援教育コーディネーターと保健部の連携を強化し、配慮を要する生徒へのサポート体制の充実を図る <p>イ・就職指導で各クラスへの担当教員配置による責任所在の明確化。加えて面接指導における進路部と学年の連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年 HR 係と進路部との連携強化により望ましい勤労観・職業観を身につける HR 活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員全員が1回以上授業見学を実施 (H30 93.3%) ・研究授業・研究協議の5回以上実施 (H30 9回) ・生徒向け学校教育自己診断「授業はわかりやすく楽しい」肯定的回答 70% (H30 66%) <p>ア・相談室を週5日開室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援教育コーディネーターによる配慮を要する生徒及び保護者への面談を確実に実施 (H30 10回) <p>イ・就職一次内定率 80%以上 (H30 88.4%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の就職率 100% <ul style="list-style-type: none"> ・生徒向け学校教育自己診断「就職・進学の指導や説明」肯定的回答 80%以上 (H30 82%) 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業、研究協議を8回実施した。() ・生徒向け学校教育自己診断「授業はわかりやすく楽しい」肯定的回答 57.8% () <p>【今後の課題】</p> <p>教員相互の授業見学や研究授業の実施により、課題解決型の授業、生徒主体の授業及び ICT を活用した授業など授業力向上の取組みを推進する。</p> <p>ア・相談室を週5日、昼休み及び放課後開室 (H30 週5日、昼休みのみ開室)。開室時間の拡大 ()</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援教育コーディネーターが同席して配慮を要する生徒及び保護者への面談回数7回 () <p>イ・就職一次内定率 82.4% ()</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の就職率 100% () <ul style="list-style-type: none"> ・生徒向け学校教育自己診断「就職・進学の指導や説明」肯定的回答 82.9% ()
<p>3 ものづくり・地域連携・キャリア教育の充実</p>	<p>(1) ものづくりのための技術力の向上</p> <p>(2) 日本のものづくりを担うことへの自覚と責任感の醸成</p> <p>(3) ものづくりを通じた地域貢献・保護者との連携による地域に根ざした学校づくりの推進</p>	<p>ア 企業の求める資格の調査・精査と生徒への資格取得の推奨。講習の充実</p> <p>ア・生徒による校内企業「城工房」等の地域交流や各種競技会等への生徒の参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・台湾修学旅行の実施 <p>ア・地域連携中核コンソーシアムによる「城工メッセ」(地元企業紹介イベント等)の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域に根ざした学校づくりの推進 <p>イ ものづくり教育への理解と深化を図るための保護者対象実習体験の実施</p>	<p>ア 資格試験受験者数 800人以上 (H30 742人)、合格率 70% (H30 59.3%)</p> <p>ア・「城工房」その他による成果発表の場、種々競技会、産業教育フェア、地域イベント等への参加・実施・出展回数 30回以上 (H30 30回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・台湾修学旅行で現地工業高校等との交流を図る。 <p>ア・「城工メッセ」来場者数 250人以上 (H30 192人)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元企業と連携した学校説明会の実施 <p>イ・PTA 実習研修の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PTA 授業見学会の実施 	<p>ア 資格試験受験者数 649人、合格率 57.8% ()</p> <p>【今後の課題】</p> <p>1年次を対象に HR や CG (キャリア・ガイダンス) の時間を活用し比較的取得可能な資格に挑戦する体制を構築する。2・3年次には実習授業や HR 等を活用し資格に挑戦する意識づけを行う。</p> <p>ア・「城工房」その他による成果発表の場、産業教育フェア、種々競技会、地域イベント等への参加・実施・出展回数 32回 ()</p> <ul style="list-style-type: none"> ・台湾修学旅行で北新市立北新高級工業職業学校との交流を図ることができた。() <p>ア・「城工メッセ」来場者数 251人 ()</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化祭時に地元企業と連携した企業によるブースを出店。卒業後の進路(企業)についての説明会を実施。また、ものづくり体験コーナーを設置した。企業側からも来場者数、内容ともに高評価を得た () ・8月24日にPTAが主催して実習研修を実施。26名が参加。サンドブラストによるガラス工芸(ガラスコップに自分で絵を描き、その絵をすりガラス状にする作品づくり)制作を行った。() ・6月15日にPTA 授業見学会を実施。56名が参加した。()
<p>4 学校の組織力向上</p>	<p>(1) 常に学校組織の見直しを図り、組織の活性化を推進する。</p>	<p>ア 教育課程プロジェクトチーム</p> <p>イ PBL (Project-Based Learning 課題解決型学習) プロジェクトチーム</p> <p>ウ 修学旅行企画会議</p>	<p>ア・教育課程プロジェクトチームを立ち上げ、教育課程を編成・実施する。</p> <p>イ・PBL プロジェクトチームを立ち上げ、PBL に係る教育課程の編成及び課題解決型授業を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪府教育センター主催のパッケージ研修支援を活用し、生徒主体の授業を推進する。 <p>ウ・修学旅行企画会議を設け、次年度以降の修学旅行に係る企画を行う。</p>	<p>ア・教育課程プロジェクトチームを立ち上げ、教育課程を編成・実施することができた。()</p> <p>イ・PBL プロジェクトチームを立ち上げ、PBL に係る教育課程の編成、実施計画の策定及び課題解決型授業を推進することができた。()</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪府教育センター主催のパッケージ研修支援を活用し、研究授業、研究協議を8回実施し、生徒主体の授業を推進することができた。() <p>ウ・修学旅行企画会議を設け、付添者を確保する観点から見直し、次年度以降は国内とする。新1年の修学旅行は沖縄・伊是名島方面に決定した。()</p>